

NPOなどで働く女性の人材育成

——組織による取り組みに注目して——

横浜国立大学 鈴木紀子

1 目的

本報告の目的は、社会課題の解決を目指すNPOなどの組織がそこで働く人々に実施している人材育成の取り組みの考察を通じて、女性の力を引き出している組織の特長を明らかにすることである。近年、日本においても、NPOなどで働いて収入を得る女性、職務経験を積む女性が散見されるようになった。先行研究でも、職業と社会活動のキャリアを「複合キャリア」と捉える国立女性教育会館（2013）、NPOで働く若い高学歴女性の姿を著す中村（2016）、キャリアの選択肢としてNPOをあげる浦坂（2017）などがあるように、NPOなどで働くことは特別なケースでなくなりつつある。一方、従来から地域活動などでは女性の活躍が顕著であり、男性に比べて女性が職場で力を発揮する機会が少ないことなどが背景にあると指摘されてきた。本報告は、技能習得のためには個人レベルの取り組みに加えて組織レベルの取り組みも重要となることから、女性たちの力を活かして事業を展開する組織の取り組みに焦点をあて、女性が働き続ける際に有効な育成策と組織のあり方を探っていく。

2 方法

分析方法は、第一に、2014年に報告者が全国のNPO法人で働く女性を対象に実施したアンケート調査の回答（有効数731通）のうち、勤務で獲得したスキルなど、女性個人の視点から能力向上につながる点を整理する。第二に、NPOやチャリティなどによる事業が社会に浸透している米国や英国で、社会課題の解決を目指す組織の管理職者に行った聞き取り調査の結果から、国や組織形態による違いを踏まえて女性の育成に関する先進的な取り組みを提示する。第三に、日本のNPO法人などの代表者や管理職者に対して実施した聞き取り調査の結果を参考に、人材育成にかかる取り組みの現状、組織や事業を運営する際に必要とされる人材とスキル、今後の課題などについて検討する。

3 結果

上記の分析を通じて、女性の力が活かされている組織では、「女性がリーダーシップを発揮しながら責任ある役割に就いている」、「組織内の円滑なコミュニケーションやスタッフのモチベーション向上のための配慮がなされている」などの特長が確認できる。

4 結論

NPOなど社会貢献を主たる目的とする組織においても女性の技能習得やキャリア形成を図ることは可能であり、そうした組織の取り組みは企業などにおいても参考になる点があるだろう。

<謝辞> 本研究は、2017～2019年度科学研究費補助金（基盤研究C）「社会貢献を目指す事業における女性のキャリア形成と組織のあり方に関する研究」の一環として行ったものである。

<文献>

国立女性教育会館,2013,『女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究—複合キャリア形成過程とキャリア学習—』。平成22年度—平成24年度科学研究費補助金（基盤研究B）報告書

中村安希,2016,『N女の研究』フィルムアート社。

浦坂純子,2017,『あなたのキャリアの作り方—NPOを手がかりに』筑摩書房。